

令和4年度
参観者 感想集

七ヶ浜町教育委員会

<p>【七ヶ浜町立亦楽小学校】 公開授業 4年1組 Rebecca Yang Xi Lin (T1) 教諭 ニツ森進 (T2) 令和4年9月15日(木) 「Do you have (a pen)? Yes, I do. I have(a pen).」</p>			
No.	参観者	団体	感想
1	高野久美子	亦楽小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な筆記用具を教材にした授業で、子供たちも楽しく会話や文房具の名前を学習していけると思いました。 ・Do you have ?の質問に対してきちんと I have (haven't) で丁寧に答える学習だったので、グループごとの活動は質問と答えの練習が何回もできて良かったと思います。 ・なかなか言葉が出てこない子供もグループの中で教えあっていい授業の雰囲気だったと思います。 ・特支を担当しているせいか、スムーズに授業が流れていくので、スピード感を感じました。参観させていただき、ありがとうございました。
2	土井謙治	亦楽小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・「明るく楽しく面白く」について 一斉に声を出すことや繰り返し言うことで、自信をもって発言する児童の姿が見られた。また、グループの活動に入る前に、T1、T2がデモンストレーションによって活動内容を明示していたことは、児童が自信をもって活動することにつながり、「明るく楽しく面白く」につながるものだと感じた。 ・「豊富な発話量」について グループ活動は、1人1人が質問したり答えたりする活動であったため、発話量の確保につながったと思う。また、言い方が分からない友達に対して、「I have a …」「I don't have a …」と教え合っていたことや日本語と英語のイントネーションの違いに気を付けて、繰り返し発音の練習をしていたことも発話量の確保につながったと思う。 ・「振り返りの充実」について 「楽しかった」「面白かった」だけの振り返りに留まらず、「check」と称してALTが「Do you have a…」と尋ね、「Yes, I do. / No, I don't」で答えていた。目標と振り返りの結びつきを感じた。
<p>【七ヶ浜町立汐見小学校】 公開授業 4年2組 Kevin Alexander Blake (T1) 教諭 阿部 伸一郎 (T2) 教諭 中嶋 紀恵 (T3) 講師 増田 哲朗 (T4) 講師 太田 智也 (T4) 講師 川村 彩陽 (T5) 令和4年9月20日(火) 「道案内をしよう」</p>			
1	今野敬子	汐見小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・本時では、「道案内」を扱った。授業の(単元の)ゴールが児童と共有されていたのがとても良かったと思う。児童は、「公園にカナヘビを捕まえに行こう」「イチゴや花を買いに行こう」「ポケモンスタンプをもらいに行こう」というそれぞれの目標に向かって、意欲的に活動に取り組んでいた。改めて、児童の実態に即したためあてを設定できる担任が行う授業の強みを実感する

			<p>ことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者の自評の中で、グループごとの案内の活動を見る時間ができてしまって、「飽きてしまうのでは」と心配していたが、互いの活動を見合う貴重な時間だったと思う。左折・右折の間違いがあつたときに見ているグループからもフォローがあつたり、歩くことを頑張っている児童の番のときは静かに見守る雰囲気を作つたり、それぞれ違うクラスではあるが、互いを尊重する一体感が生まれてきていると思う。これこそがコミュニケーションの素地となり、これから子供同士のやりとりの広がりや深まりが出てくるのだと感じられた。
<p>【七ヶ浜町立松ヶ浜小学校】 公開授業 6年1組 Lin Rebecca Yang Xi (T1) 教諭 原田 真紀子 (T2)</p> <p>令和4年9月21日(水) 「My Summer Vacation 夏休みについて伝え合おう」</p>			
1	榊原啓太	松ヶ浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの姿から「明るく、楽しく、面白く」が見ることができた。夏休みの過ごし方を発表するときに、周りの多くの児童が反応していた。児童は安心して発表できており、聞いている児童は楽しそうにしていた。ジェスチャー以外にも言葉でのレスポンスも大切だと感じたので、普段の授業から雰囲気作りを行いたい。 ・授業内容では学校行事と結びつけていたので子供たちにとって身近な題材であり、積極的に取り組む姿が見られた。七ヶ浜の英コミの内容を柔軟に変えることができる良さが出ていた。題材選びをしっかりと行うようにする。
2	河原田千春	松ヶ浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行という実際に体験した題材のため、児童がより意欲的に対話しようとしていた。児童が意欲を高める題材設定は、大切だと感じた。 ・修学旅行の写真を使用したのは、その時の気持ちを想起させるのに有効であった。児童の表情や発言にも表れていた。 ・気持ちを表す言葉を、アクティビティで自然に数多く発話させていた。自分の気持ちを話すだけでなく、友達がどういう感想なのか気にしながらコミュニケーションをとっていたのが良かった。 ・授業全体を通して、児童の楽しそうな様子が見られた。40分の組み立てがゴールに向かって明確であった。
3	柴田愛	松ヶ浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行をテーマにすることで、まさにグローバルでローカルなコミュニケーション活動となっていた。共有体験をした修学旅行について説明することで、“fun, exciting, interesting”などの形容詞も共感しながら会話をしていた。そのため、ペア活動であるテレパシーゲームも盛り上がり、楽しみながら英語を使っていた。 <p>アクティビティ【Enjoy Communication】に入る前にも、T2が授業全体を通してコミュニケーションポイントとレスポンスフレーズについて声を掛け</p>

			<p>ていた。</p> <p>その結果、アクティビティ中その2つを意識して取り組んでいた。振り返りでは、その点について述べる児童もいて、よりよいコミュニケーションをとろうとする姿勢がうかがわれた。</p> <p>・クラス全体で明るく、楽しく、ノリノリでチャンツをしていた。6年生が日頃から楽しい雰囲気英語コミュニケーションに取り組んできた様子を学ばせていただいた。</p>
4	瀬戸口眸	松ヶ浜小学校	<p>(アクティビティ Enjoy Communication について)</p> <p>・夏休みの思い出を、絵や写真を貼り付けた Jam Board 資料を使用して発表することで、発表を聞く側の単語を聞き取るヒントになるので良いと思った。また、その資料の写真から、質問内容を考えたり、コミュニケーションを広げたりする手段になっていてとても良かった。</p> <p>(アクティビティ全体を通して)</p> <p>・発言した児童の言葉をT1やT2がひろって児童に返し、それに対して児童が答えるという流れが自然にできており、その結果英語をたくさん話していて良かった。また、コミュニケーションポイントを何度も振り返らせることで、児童が意識してコミュニケーションを行っていた。</p>
5	齋藤美穂	松ヶ浜小学校	<p>(アクティビティ 修学旅行 de テレパシーゲーム) について</p> <p>・一人一人ちがう「夏休みの体験を教え合う」という最終目標に向けて、学級全体で学習した修学旅行をアクティビティに取り入れたのが良いと感じた。</p> <p>・修学旅行の実際の写真を提示したことで、その時の気持ちを思いだしやすかったと思う。</p> <p>また、自分の感想と同じだった喜びや違う感想をもったというおもしろさも児童は感じる事ができたと思う。</p> <p>・本時学習する sentence をただ繰り返させる練習ではなく、友達と交流しながら楽しく、自然に発話量が増えていくアクティビティで、小学校の特性に合っていると思う。</p> <p>・このアクティビティから次の夏休みの体験のコミュニケーションに自然な形でつながっていくと思う。</p> <p>(振り返り) について</p> <p>一人の振り返りについて広げて質問することで、友達の感想に、関心をもって聞く態度が見られた。</p>

<p>【七ヶ浜町立亦楽小学校】 公開授業 4年2組 Rebecca Yang Xi Lin (T1) 教諭 大場舞 (T2)</p> <p>令和4年9月29日(木) 「Alphabet」</p>			
1	土井謙治	亦楽小学校	<p>発話量の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットを音に合わせて言う活動では途中で音が途切れてしまったが、T2が歌を口ずさむことで、子供たちは続けてアルファベットを言うことができた。臨機応変なT2の対応が発話量の確保にもつながった。 ・インタビューゲームを通して、「What is my sign?」「Do you have()?」「Yes, I do.」「No, I don't.」を繰り返し言うことができた。謎解きのようなゲームだったので、子供たちも意欲を高く保って活動できた。何度も繰り返し行うことで発話量が確保された。 <p>振り返りの場面の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「post」は「stop」は同じアルファベットからできていることに気づいた児童がおり、アルファベットの発音の仕方や単語の発音だけでなく、アルファベットの表記にも注視できたことに、これまで英語に親しんできた子供たちの積み重なりを感じた。
<p>【七ヶ浜町立松ヶ浜小学校】 公開授業 3年1組 Kevin Alexander Blake (T1) 教諭 河原田 千春 (T2)</p> <p>令和4年10月5日(水) 「好きかな? きれいかな?」</p>			
1	榎原啓太	松ヶ浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の後半部分を参観した。アクティビティーではどの子も最後まで集中して取り組む姿が見られた。友達とカードが揃うとシールがもらえるという工夫が子供たちのやる気につながっていると感じた。 ・アクティビティーの後に全員でやったことの確認をしていた。野菜の言い方や英語での答え方など授業の総復習の形になっていた。英語の授業の終末に行うことでまとめになっていると感じたので、参考にしていきたい。 ・振り返りの時間では子供たちが積極的に手を挙げて発表する姿が見られた。手を挙げることに対して抵抗がないと感じた。低学年の時からしっかりと英語に親しませてきた結果が出ていると思った。
2	折居晃弘	松ヶ浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムカルで、児童ほぼ全員がノリノリで授業を受けていました。「Why」「Because」等も使いながら、発話量も豊富でした。T1とT2の関わり方も、動きが大きくてとても良かった。 「What ○○ do you like?」や「Do you like ○○?」の言い回しも、○○部分を様々な物に変えることで、何度も練習でき、しっかりと身に付けていました。児童が「明るく・楽しく・面白く」を感じるためには、指導者自身が「明るく・楽しく・面白く」を感じないといけないと改めて感じさせら

			<p>れました。</p> <p>英語コミュニケーション科をスタートさせるときに、金ヶ崎の小学校に視察に行きました。その時参観させていただいた授業に衝撃を受け、七ヶ浜の子ども達に本当にできるだろうか？と思っていましたが、その時の授業よりもレベルアップしているなあ・・・と感じさせられるような授業だったと思います。</p>
<p>【七ヶ浜町立亦楽小学校】 公開授業 2年1組 Nathaniel Hazel Stuart (T1)</p> <p>教諭 松本徹朗 (T2)</p> <p>令和4年10月13日(木) 「What animal do you like? I like～」</p>			
1	土井謙治	亦楽小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の単語を発音させるときに、ジェスチャーを取り入れながら発音をさせることで、動物のイメージと単語が結びつきやすくなる。さらに、楽しんで発音練習できると思うので、行ったほうがよい。 ・「What animal do you like?」「I like ～。」の板書をすべき。インタビューゲームで、何と言ったらよいか分からない児童への支援となる。 ・質問に対して単語だけで答えている児童には、I like ～.と文で答えるようにT2が指導する。指導案には記載してあるが徹底していなかった。 ・インタビューゲームで、質問をされていない児童に対する支援が必要である。T1,T2が積極的に質問に行く等。発話量確保と本時のねらいにせまるためには必要な支援。 ・振り返りの場面で「全部楽しかった」という児童に Why?と T2 が問いかけ、学習のねらいにせまった振り返りをさせたい。授業者からの切りかえしが必要。
<p>【七ヶ浜町立亦楽小学校】 公開授業 1年2組 Nathaniel Hazel Stuart (T1)</p> <p>教諭 宇和野美咲 (T2)</p> <p>令和4年10月19日(水) 「いろいろな動物の言い方を知ろう」</p>			
1	山口良之	汐見小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は自分のことで精一杯の時期のはずですが、学級の雰囲気作りや担任・ALTの先生方との信頼関係が上手に作れていたため、のびのびと周囲のお友達との活動にも取り組んでいると思いました。(コミュニケーションの輪が参観していた我々にも自然に広がったのは、児童の発話量を増やすだけでなく『コミュニケーション』を目的とする取り組みにも合っていると感じました) ・せっかく Key Word Game で Stand up の Action を取り入れたのですから、Interview Game で Demonstration に参加してくれた児童のときも、みんなで Stand up してあげればよかったなーと思いました。同様に、あらゆる活動で「トントン good job！」ができれば、児童が参加する時間が増えたのではと思いました。

2	山村楓生	汐見小学校	<p>・「サイレント How are you?」では、それまでの賑やかさと打って変わった落ち着いた環境の中でアクティビティに取り組んでいた。Fine や Happyなどをリズムに合わせて練習し、その活動に取り組んだことで、日本語から英語へと意識を転換させることができているように感じる。</p> <p>・「キーワードゲーム」は初めて行う活動であったのか、最初の3回程度はルールを理解が追いついていないようであった。だが児童は活動しながらルールを理解して取り組んでおり、日本語による指示が最低限でも活動に臨んでいた。また児童から発せられる言葉がまわりの児童への良いヒントになっており、それも一種のコミュニケーションにつながっているように感じた。</p> <p>・活動が長くなってリズムが崩れ始めた時も、T1から出てくる「banana」がよいアクセントになっていたからこそ、あれほどの回数を続けられたのだと思う。</p> <p>・「インタビューゲーム」で、活動の最後にカウントする場面があった。おそらく46というのは既習の数の範囲を大きく超えたものであると思うが、多くの児童が法則を見出してカウントしていたように思う。発話量の確保につながっていたように感じる。</p> <p>・振り返りの時間が5分以上設定されていた。多くの児童が発表できていたが、T1と「What's animal?」のやりとりをしたくて挙手している児童が多かったように思う。その「英語を話したい、コミュニケーションを取りたい!」という意欲が素晴らしかった。</p>
3	土井謙治	亦楽小学校	<p>豊富な発話量について</p> <p>・インタビューゲームは、尋ねた人から答えを聞き、好きだと答えた動物に投票できるため、どんどん質問しようという意欲喚起になった。また、どんどん質問することが発話量の確保にもつながった。</p> <p>・インタビューされていない児童に対して、T1、T2が質問をすることで、自分の好きな動物を答える機会を作り出していた。</p> <p>・振り返りの場面で、参観者に全員で問いかけていたことも発話量の確保である。</p> <p>振り返りの充実</p> <p>・「友達に好きな動物を尋ねることが楽しかった」と多くの児童が発言していたことから、「What animal?の表現に親しむ」というねらいに応じた振り返りができていた。また、振り返りの際にT1が、What animal?と児童に問いかけ、答えさせたことで、自分の想いを表現する機会を再び与えることにつながった。</p> <p>・「silent how are you?」が楽しかった。と振り返った児童がいた。メインの</p>

			<p>活動だけでなく振り返ることができた。また、その児童には、T1 が How are you? と再度問いかけ、答えさせていた臨機応変さが良いと思った。</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューをするということは、「尋ねる」と「答える」ことがセットであり、ペアでの発話が確保される。インタビューをして答えると、投票できることも活動への大きな意欲付けとなった。
<p>【七ヶ浜町立松ヶ浜小学校】 公開授業 6年2組 Lin Rebecca Yang Xi (T1) 教諭 長澤亜紀子 (T2)</p> <p>令和5年10月28日(金) 「 」</p>			
1	中島京子	松ヶ浜小学校	<p>・初めて松ヶ浜小学校の英コミ授業を参観。とても楽しんでいる様子が伝わり、こちらも一緒に声を出して参加した。</p> <p>(Chant! Who can Ski? について)</p> <p>音源に合わせて歌ったり立ち上がったりの動作がスマートで、授業を理解し安心して楽しんでいる様子だった。</p> <p>(Activity さいころゲーム について)</p> <p>すごろくを進めてペアで Can you~? とできていた。ペアによってはコマを進めるスピードが速く、もっと相手の答えに対して me too などの相槌ができればよかったと思った。</p> <p>(Activity インタビューBINGO について)</p> <p>学習した表現を使って積極的にインタビューしていたが、男子は男子と、女子は女子とだけのインタビューが多かった。もっと男女でコミュニケーションができれば、BINGOの数もひろがったのではないか。</p> <p>(Writing について)</p> <p>例にでていた一文だけ完成させて満足していた子に、先生が机間巡視しながら声がけをすることによって、3文全てを考え書いた子が増えていた。</p>
2	和泉陽子	汐見小学校	<p>・学級の雰囲気が温かく、屈託無く交流することのできるクラスであることが分かった。Writing の時間にも書きあぐねている児童に書き終わった隣の児童が「~できるじゃん。~って書けばいいじゃん。」と声をかけており、授業の中での認め合いができていた。</p> <p>・授業の計画が黒板に明記されており、見通しを持って安心して活動ができるようになっていた。</p> <p>・ふり返りシートに日付を書いて書き足す形になっており、児童が年間を通した活動をふり返り、自分の成長を感じられるような造りになっていた。</p> <p>・ふり返りの時間がしっかりとれていて、めあてをうけての記述も「Nice 言えて良かった。」「できることを言えて良かった。」としっかり書けていた。また、書きっぱなしで終わるのではなく、〈How was class? It's fun.</p>

			Why? Because 日本語で発表〉のやりとりの型に沿って全員がふり返りを共有できていた。更に「じゃあやってみよう。」とクラス全体対発表者で会話をしている活動があり、学習内容が身についたことを児童が実感できていたように思う。
<p>【七ヶ浜町立向洋中学校】 公開授業 2年3組 教諭 大橋智江(T1) 教諭 菅井陽菜(T2) 増田中学校 令和4年11月4日(金) 「Unit4“Homestay in the United States”『NEW HORIZON English Course2』」</p>			
1	山村楓生	汐見小学校	<p>・多くの活動が「2分」で設定されており、それによって授業全体がリズムよく進んでいると感じた。その活動と授業の流れに生徒も慣れているようで、次がどの活動か見通しがもてるからこそ、自信を持って音読している生徒が多かったように思う。</p> <p>・ペアによる音読練習では、生徒間での学力差が大きいところもあった。だが、そのペアでは相手が読めなかった瞬間に教えるのではなく、少し待って1文字目のヒントを出す、という姿が見られた。「何周音読できるか」という記録に挑むのであれば、すぐに教えた方が良いはずであるが、そうする生徒がいなかったのは「教え合い」という意義を理解しているからであると思う。どの生徒も意欲を失わずに音読に取り組む姿が印象的であった。</p> <p>・学習の最初と最後に、自分一人でどれくらい読める(ようになった)のか確認させていた。まず自分がどれくらいの力なのかを知り、多様な音読練習に励み、最後にどれくらい変化したのか数値で明確に示す。このステップによって自身の練習に対する姿勢はどうだったのか、次回はどうしたいかなどを考えさせることができるのだろう。50分の学習を通じて自身がどれほど変容したかを意識させられるので、一人一人が練習の必要性を感じながら音読できていると感じた。</p>
<p>【七ヶ浜町立向洋中学校】 公開授業 1年2組 教諭 半澤律子(T1) 教諭 天野美恵子(T2) 増田中学校 令和4年11月4日(金) 「Unit5“A Japanese Summer Festival”『NEW HORIZON English Course1』」</p>			
1	和泉陽子	汐見小学校	<p>明るく、間違いをおそれずにのびのびと活動していて、素敵な学級の雰囲気だと感じた。</p> <p>帯活動では未習の単語もどんどん学習していて、驚かされた。単語一つを読む、訳す、書くまで完了させてから次の単語に進む従来の学習方法よりも、浴びるように多くの単語に触れ、「そういえば～と言いたいときの単語、リストにあったなあ。何だっけ?」とリストに戻る方が「使えた」という実感を伴って習得できる様に思う。</p> <p>数分毎にのテンポの良い活動が展開され、密度の濃い活動ができていた。ピクチャーカードを見せながらのペアワークではどの生徒も生き生きと自分なりの表現でアウトプットしており、また最後に自分のideaも付け加え</p>

			ていて、中学1年生でここまで英語が「使えて」いることに驚かされた。
2	河原田千春	松ヶ浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・授業全体がテンポ良く進み、生徒が明るく元気よく楽しそうに活動していた。 ・帯活動では、多くの単語に触れていて驚いた。何度も発話することによって、大きな力になると感じた。 ・ペア活動では、相手のことを意識して伝えることができていた。カードを見せながら聞こえる声で表現していて素晴らしかった。また聞いている方も、反応したりアドバイスしたりしていたのが良かった。My idea を付け加えるのも、生徒が主体的に取り組んだり深く考えたりするのに有効であると感じた。 ・全体発表では、友達がどういう発表をするのかしっかり聞いていて、学級全体の学習に向かう様子が見られた。発表の声も大きく、全体で共有できていた。
3	原田真紀子	松ヶ浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、生き生きと楽しそうに、大きな声でコミュニケーションをとっている姿が素晴らしかった。 ・帯活動では、テンポ良く発話量を促すことができていた。 ・子どもたちがOh! Wow! などと反応しながらコミュニケーションを取る姿が見られた。相手を意識したやりとりができていた。 ・リテリングの活動では、教科書の表現を使って書き直すことに加え、全員が最後に My idea を付け加えることができていた。ペア活動では、生徒同士での声の掛け合い（あいづちを打つ、教え合いをする、など）が多く見られた点も素晴らしかった。 ・全体の前での発表では、皆の前で堂々と発表することができていた。Fの場面を言いたい、various を使いたい、と伝えたいことを持っている生徒の姿がすてきだと思った。また、学級全体に、できないことを認め合ったり、教え合ったりする雰囲気を感じられた。 <p>1年生のこの時期に、これだけの英語を書いたり話したりするようになるのか、と驚きました。大変勉強になりました。これからの授業に生かしていきたいです。ありがとうございました。</p>
<p>【七ヶ浜町立七ヶ浜中学校】 公開授業 1年2組 教諭 和田朋子(T1)</p> <p>令和4年11月10日(金) 「Unit5“Universal Design”『NEW HORIZON English Course2』」</p>			
1	氏家美香	向洋中学校	子どもたちが授業の流れを理解しており、最小限の指示でスムーズに活動できていました。音読練習の際も自分のレベルに合わせて速やかにワークシートを選択し、一生懸命練習に取り組んでいるのがすばらしかったです。これも音読ワークシートの種類や練習方法に工夫をされているからだと感じました。学年が上がるにつれて長く難しくなっていく本文をどのように練習させていくか悩んでいたのも、リテリングにつながる文を要約して練習してい

			<p>るということ聞き、なるほど！思いました。</p> <p>黒板に1時間の授業の流れが板書されていて、参考になりました。本時の目標に加えて提示することでさらに有効になると思いました。</p>
2	菅原南	向洋中学校	<p>和田先生の授業を参観させていただきました。七ヶ浜中の英語の授業を初めて見ましたが、向洋中の取組と所々異なる部分があり、とても勉強になりました。印象的だったことは以下の3点で、1つ目は内容量についてです。帯活動の中で3つの活動に次々と取り組んでおり、毎日の積み重ねで少しずつ力が付いていくのだろと感じました。一連の流れとして生徒がスムーズに活動しており、定着すれば短い時間で取り組めるのだと思いました。2つ目は目標の設定についてです。帯活動から最後まで何度も発話の場面があり、和田先生の無駄のない指示も相まって、発話量の確保がしっかりとなされていました。活動が次々と進んでいくので、生徒にとってあっという間の45分なのではないかと思いました。最初のビンゴや最後のlast sentenceを言うか言わないかのゲームなど、楽しみながら学ぶことのできる活動もあり、とてもいいなと思いました。参観させていただき、ありがとうございました。</p>
<p>【七ヶ浜町立七ヶ浜中学校】 公開授業 2年1組 教諭 後藤郁子(T1)</p> <p>令和4年11月10日(金) 「Unit5“Universal Design”『NEW HORIZON English Course2』」</p>			
1	氏家美香	向洋中学校	<p>発問や活動内容を精選し、1つ1つ確認しながらやっていらっしやっただので、下位群の子どもたちにとっても分からないまま時間が過ぎるということがなく、達成感があると思いました。少人数に分けて行う利点を多く見つけることができました。</p> <p>黒板に1時間の授業の流れが板書されていて、参考になりました。本時の目標に加えて提示することでさらに有効になると思いました。</p>
<p>【七ヶ浜町立松ヶ浜小学校】 公開授業 2年1組 Lin Rebecca Yang Xi (T1)</p> <p>教諭 岸美瑞穂 (T2)</p> <p>令和4年11月16日(水) 「すきな動物は？」</p>			
1	中島京子	松ヶ浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> とても楽しんでいる様子が伝わり、こちらも一緒に声を出して参加した。(How are you time について)【豊富な発話量】 T1が「ハッピー、ハッピー、ハッピーはノー」と言って発話を促していた。簡単にやり過ごすのではなく、いろいろな言葉で自分を表現する大切な時間だとのメッセージを感じた。 (Let's Chant! について)【明るく楽しく面白く】 動物をジェスチャーで表すのが親しみやすく、発話が遅れてもジェスチャーでテンポよく参加できるので、子どもの自信につながった。 (Activity ステレオゲーム について) <p>集中できるように、T1が「ノージェスチャー・Clear Voice・listen carefully」と促してからデモンストレーションを行っていた。</p>

			(振り返りについて)【振り返りの充実】 「もっとやりたかった」と言った子に、先生が「来週もやるよ!」と声をかけていた。次回への意欲につながると感じた。
2	折居晃弘	松ヶ浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・単語や表現をアウトプットするためには、やはりチャンツのリズムに乗って行くと、楽しみながらできると感じた。ただ、普通の会話の時にも、チャンツのリズムになってしまう児童がいる。良いのかもしれないが、少し違和感も感じる。 ・初めての単語を覚えるときに、ジェスチャー付きで覚えると特に低学年の児童にとっては、有効だと感じた。低学年のうちから繰り返し行っていると、ノリノリで恥ずかしがらずに表現することができると思う。 ・堂々と間違えることが認められていると感じた。Rebeccaが「違〜う。けど、Big Voiceでいいね。」と言っていたのが良かった。また、T2の岸先生も、児童が不安そうにしていると、さりげなく側について、フォローしている点も良かったと思う。
<p>【七ヶ浜町立汐見小学校】 公開授業 3年1組 Nathaniel Hazel Stuart (T1) 教諭 本木真理子 (T2)</p> <p>令和4年11月24日(木) 「英語で動こう!」</p>			
1	三崎恵理	松ヶ浜小学校	<p>始めのウォーミングアップのダンス「Let's sing Hokey Pokey」が元気よく踊っていて、これから始まる英語の学習への意欲が感じられました。とてもよい雰囲気での学習がスタートしました。</p> <p>今日のめあてが「ボールたたきゲームに挑戦しよう!」で、先生がデモンストレーションをやって、うまくボールを外したところが子どもたちに意欲をかりたてていました。グループに分かれてボールたたきゲームをしている様子では、体を触って向きを変えている児童がいたが、1回目が終わってみんな確認をしていたので、2回目はlittleを使ってうまく誘導していた。</p> <p>最後の振り返りでは、友達の良かったことも発表することができていた。楽しい学習を見せていただきありがとうございました。</p>
<p>【七ヶ浜町立汐見小学校】 公開授業 3年2組 Nathaniel Hazel Stuart (T1) 教諭 山村楓生 (T2)</p> <p>令和4年11月29日(火) 「英語で動こう!」</p>			
1	榊原啓太	松ヶ浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・「ボールたたきゲーム」では子供たちがやることを理解して行っていた。また、子供たちは日本語を使わずしっかりと英語で伝えようとしている姿が見られた。飽きたり分からなくなったりすると日本語を使う姿が見られるが、今回の授業ではなかった。一緒に行ったデモンストレーションが分かりやすいこと、先生の指示が明確だったことが良かったと思う。 新しい言葉として「little」を学習した。「little」は先生のデモンストレーションを見て理解できていた。そして、中間の振り返りをしたときに

			「little」の意味をもう一度確認することでアクティビティーにも取り入れることができていた。丁寧に指導することの大切さを理解できた。
2	長澤亜紀子	松ヶ浜小学校	<p>単元の計画がしっかりと立てられている点がすばらしいと感じた。1時間の中でどんな活動内容を行うのか、どんな表現を身に付けさせたいのかが一目で分かった。</p> <p>本時の活動では、メインのアクティビティ（ボールたたきゲーム）を行うために「Hokey Pokey」「ダンスダンスレボリューション」を行うことで、必要な表現を楽しみながらできていた。</p> <p>「Hokey Pokey」の英語を聞き取り、楽しく踊っていた子供たちだったので、本時で必要な表現をもっと声に出すと、発話量をさらに増やすことにつながるのではないかと思った。</p> <p>ボールたたきゲームでは、ゲーム途中で振り返りをするので、難しかった a little を復習できたので、子供たちが自信をもって2回目の活動に取り組んでいたと思う。</p> <p>参観させていただきありがとうございました。</p>
<p>【七ヶ浜町立汐見小学校】 公開授業 1年1組 Kevin Alexander Blake (T1) 教諭 板橋瑞枝 (T2)</p> <p>令和4年11月30日(水) 「 」</p>			
1	川村彩陽	松ヶ浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の言い方の練習の際、ジェスチャーを交えながら楽しそうに発言する児童の姿が印象的だった。児童から自然と、「One more time!」と出てきたことに驚いた。ケビン先生の「One more time.」をただリピートするのではなく、どんな時にそのフレーズを使うのかというのをこれまでの授業の中で学習した結果なのだろうと感じた。 ・チャンツでは言えていた野菜も忘れてしまっていて言えない児童もいたが、お店屋さん役の児童がジェスチャーでヒントを出す姿や教えてあげる姿がみられ、決められた会話以外のコミュニケーションがとれていて児童同士の関係の良さも感じられた。
2	千葉梢	汐見小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ReviewでもChantでも、英語とジェスチャーを上手く結びつけ、児童が楽しく単語を身に付けていると感じた。日頃から、言語・非言語にかかわらず、楽しく英語コミュニケーションに触れているのだと思う。T2が児童の近くでジェスチャーをやってみせ、促すことで、児童も安心して発音やジェスチャーができているように見受けられた。 ・お店という場面を想定することで、「必要な野菜を買う」という目的がはっきりしており、役割に添った会話ができていると思う。お店側の児童がどのように言ったらいいか悩んでいる場面もあったが、隣の店の児童や、お客さん側の児童が教えてあげる様子もあり、どの児童も学習した言語材料を使っ

			<p>て話している様子が見られた。</p> <p>参観させていただき、ありがとうございました。</p>
<p>【七ヶ浜町立松ヶ浜小学校】 公開授業 はまかせ・はまぎく Nathaniel Hazel Stuart (T1)</p> <p>教諭 齋藤 美穂 (T2)</p> <p>教諭 瀬戸口 眸 (T3)</p> <p>支援員 星 由美子 (T4)</p> <p>令和4年12月5日(月) 「好きな動物やペットを教えよう」</p>			
1	中島京子	松ヶ浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・とても楽しんでいる様子が伝わり、こちらも一緒に声を出して参加した。 (ポイント1 について) 【Clear Voice】 T1がリズムカルに単語を発音し、途中でテンポアップしても子どもは楽しんで一緒にリズムに乗って発声していた。さらに、「ピックアップした動物の時は立ち上がる」という動きを入れたことでT1がフェイントをかけても、発声に集中して聞いていた。 (ポイント2 について) 【明るく楽しく面白く】 動物をジェスチャーで表すのが親しみやすく、その仕草に愛嬌があった。誰がどんな動物を好きなのか把握しT2, T3, T4が「ほらー、きたよー！」と盛り上げて参加しやすいようにフォローしていた。 (Activity インタビューゲーム について) 【豊富な発話量】 相手の好きな動物を聞き、それをスタンプラリーのようにシールを貼ってシートを完成させるのは素晴らしいアイデア。貼る場所にもそれぞれの名前が書いてあったので、迷うことなくインタビューの相手を探すことができていた。どの子どももシール集めを優先せず落ち着いて「Hello」と「See you」の挨拶ができていた。 (振り返りについて) 【振り返りの充実】 感想を話した児童にT2がさらに「どうしてそう思ったの？○○さんのどんなところ？」と返し、振り返りを広げていた。
2	折居晃弘	松ヶ浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学年や様々な障害のある児童が、同じ課題に取り組みつつ、それぞれが楽しく活動に参加できていました。適切なサポートがあるおかげだと感じました。また、プラクティスを通して、テンポよくリズムに乗って発語(アウトプット)できていたのも良かったと思います。 ・アクティビティーでは、少人数の利点を活かして、工夫された内容になっていたと思います。どの子どもも目的を達成することができたのも、次の活動への意欲につながると感じました。 ・振り返りの場面では、T2が話し方の模範を示すことにより、特別支援学級の子ども達にも振り返り方がよく理解できたのではないかと感じました。また、全員が振り返りを行い、友達同士で良い点をたたえ合っていたのも印象的でした。

<p>【七ヶ浜町立亦楽小学校】 公開授業 1年1組 Nathaniel Hazel Stuart (T1) 教諭 佐藤晃子 (T2)</p> <p>令和4年12月8日(木) 「 」</p>			
1	瀬戸口眸	松ヶ浜小学校	<p>授業の最初のあいさつでは、全員が意欲的に取り組んでおり、ネイト先生とのやりとりを楽しんで行っていた。何曜日かを聞く時、ただ、その日の曜日を聞くのではなく、「Monday?」「No」「Tuesday?」「No」など、一つ一つ質問していくことで、曜日を聞く機会を多く取り入れていて良いなと思った。単語の練習の際、カードの出し方を工夫していて、児童が積極的にカードを見て答えようとしている姿があり、とても良いと思った。</p> <p>アクティビティーで「What do you want?」「I want○○」を使って、リースにシールを貼る活動を行っていたが、このセンテンスを使ってやりとりを行っている児童が少なかったように感じた。このアクティビティーの前に行ったカラータッチゲームの時にも、「What do you want?」を使い、十分にセンテンスを聞かせ、言わせることで身につき、次のアクティビティーにつながったのではないかと感じた。</p> <p>全体を通して、子どもたちが英語に、そしてネイト先生に慣れていて、楽しく活動していることがとても良いと思った。</p> <p>参観させていただきありがとうございました。</p>
2	横田拓生	汐見小学校	<p>1年1組の児童がとても人懐っこく、そのためか全体的にとっても温かく楽しい雰囲気の授業だった。</p> <p>アクティビティーのクリスマスリース作りは時期的にもタイムリーで、欲しい色のシールを手に入れるという内容も1年生にとっては分かりやすいものだったと思う。日本語で事細かに説明しなくても、T1とT2の英語のやりとりを聞くことを通して、何をすればよいのか考えながら聞いている姿がとても良かった。ただ、「What do you want?」「I want～」の言い方は1年生にとって難しかったように感じた。中には、児童同士が日本語だけでやりとりをしている場面が見られた。「What color?」「○○, please.」など(文法として適切なのかは分からないが)少し簡単なものでもよいのではないかと感じた。</p>
3	太田智也	汐見小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT が指定した色を教室中探している姿や、友達と話をしながらシールをもらう姿が見られ、子供たちが活発的に英語の活動に参加している姿が見られた。 ・「color touch game」では英語で言った色を児童が瞬時に日本語に変換し、楽しいそうにクラスにある言われた色と同じ色を探している姿が見られた。 ・「what do you want?」や「I want red」というやりとりを繰り返し、話し方のパターンを頭にインプットして、児童同士で英語を使用して会話できてい

			<p>た所もあったが、日本語で際しているグループや一部省略して会話している所もあった。</p> <p>・英語で話している児童はいたが、1年生ということもあり先生が言っているから自分たちも同じように言ってみようという雰囲気を少し感じられた。</p>
4	東海林充	汐見小学校	<p>この時期の1年生は学習習慣も身につけており、英語コミュニケーションの進み方にも混乱せず、「How are you?」「I'm happy.」などのやり取りにも、慣れが感じられた。他校の先生がいたからか、少し緊張していたようだったが、ネイト先生が児童の答えを待ってあげたり、T2の先生の呼び掛けなどで、あまり混乱なく会話ができていたように感じた。</p> <p>メインの活動である色の活動では、後ろの先生が「Black だあ。」などと周りを見回す余裕もあったので、色を英語で言うことに関しては、問題なさそうだったが、お店とお客さんに分かれての会話の活動では、</p> <p>「What do you want?」（これは結構聞こえた）</p> <p>「I want blue.」（「I want」をあまり言っていないように聞こえた）</p> <p>「Here you are.」（ほとんど聞こえない）</p> <p>だったので、1年生には少し難しい活動であったように感じた。</p> <p>季節のクリスマスリースの上にシールを貼るのを意欲的にやっていたので、同じようなことを学習する機会があれば、参考にしたい。金色のシールの扱いを児童にさせなかったのは、金色に偏るのを防ぐためだったのだろうか。最初から欲しがって並んでいた子がいたので、ボランティアなどをさせて、ごほうびにしても良かったかもしれない。</p> <p>見せていただき、ありがとうございました。</p>